報告

地図と遊ぼう！ 仲間を増やそう！

～JOA 主催普及指導者育成講習会報告～　2011 年 2 月 27 日 ／3 月 6 日

小泉成行
松澤俊行

普及指導者育成講習会で講師を務めた小泉成行、松澤俊行が講習会の様子を報告する。

普及指導講習会

本年度、日本オリエンテーリング協会(JOA)では昨年度に続いて全国５地区での「普及」をテーマとした主催講習会を実施した。「普及方法研修会」と称し、参加者間のディスカッションなどを通じて普及活動の今後について考えた昨年度の成果を受け、今年度は「普及指導者育成講習会」と銘打って進められた。内容は、指導法の実践や新しいスタイルの簡易オリエンテーリングプログラムの体験を軸としたものとなった。

この普及指導者育成講習会は、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成対象活動でもあり、「地図と遊ぼう」とのタイトルが前面に押し出された。(助成の獲得に際しては、JOA 副会長・船橋昭一氏の尽力があった。)各地の講習会はこうした背景や趣旨に沿うよう構成され、参加者は主に「次代の担い手」である子どもへの働きかけを想定し、オリエンテーリングへの興味付け、動機付けを行う方策について学んでいった。

今回の記事では、愛媛、愛知の 2 会場で講師を務めた小泉成行(愛媛会場でメイン講師を担当)、松澤俊行(愛媛会場および愛知会場でアシスタント講師を担当)が講習会の様子を報告する。

小泉成行、愛媛会場を語る

2 月 27 日(日)（参加 11 名）
小泉成行

屋内での演習（読図ゲーム）中の様子
情報を読み取り、かつパートナーにしっかり伝える難しさを認識。

まず講義で、キッズ０やフォト０、クイック０、スコア０などの子どもの発達段階に合わせたオリエンテーリングのタイプを紹介した。スコア０に関連して、講習会開催に当たって地元の調整等でご尽力された愛媛県協会の徳野利幸さんから、最近参加された高知県南国市と静岡市清水のロゲインを紹介していただいた。これらのプログラムは、子どもでも行えるという特徴に加え、設営側の準備が従来のオリエンテーリングより手軽である点も特筆に値する。手軽である分、どこでも開催できるし、実施頻度も高められる。

【写真と地図との対応クイズ例題】
上の写真の風景を見ている人は、下の地図上のどこに立って、どちらの方を向いているだろうか？
正解：地図中南東部（右下）の池の、東（右）の角付近から、池沿いの小道が延びる方向（左上の方）を向いている。

続いて、野外に出る前に屋内のゲームで地図に慣れる目的で演習スタイルの講習を進めた。手始めに、イラストと簡易地図を使った等高線や整置への理解を高める練習をした。次に、写真と地形図を使い、被写体となった特徴物の、地図上での位置を見極めるクイズにペアでチャレンジしてもらった。

これは、地図記号としての表記されるもの・されないもの、現地で特徴的なものを拾い出す、など地図やナビゲーションに必要な感覚を机上で養う方法の体験を目的としていた。

その後、当地の０マップを利用して各自でクイズの例題を作成してもらった。時間が押してしまい、作ってもらった問題をあまりフォローできなかったのが残念だった。

最後の実地体験プログラムでは、まず野外に出る前に屋内でできる整置の説明方法を学んでもらった。その後、野外に出て、ワンポイントオリエンテーリングリレーを行う。1 コントロールを取って戻ってくる、戻ってきたら次の人にタッチする、次の人が同じようにワンポイント０をしてくる。そんな単純なルールでも十分楽しめるということを体験してもらった。

なお講習では２人１チームで行ったが実際は5～6 人で１チームを想定している。方向感覚や地図に慣れることを重視し、慣れた仲間がアドバイスをしても良い、といったルールであることを確認。またチーム間の競い合い、コミュニケーション促進などを狙ってリレーという形式をとっていることを説明した。

屋外実習ミニゲームのルール説明中の様子
広場を取り巻くように設定された、数々のコントロールの内、自分が行くべきコントロールがどれかを判断し、行って、戻って来る。整置の重要性を思い知らされるゲーム。

続いてワインポイント０で地図に慣れたことを前提として、3 ポイント０リレーで少しコントロールの数を増やして同じようにリレーを行い、最後は通常の１人ずつスタートする方法で簡単なポイント０をやってもらった。このように段階的に本格的なオリエンテーリングへ引き上げていく、その過程で地図を使ったナビゲーションの楽しみを感じてもらう、という狙いを説明した。

事前にあまり参加者が集まらず、急遽参加していただいた方が多かったが、愛媛県協会、香川県協会のみなさんが普及活動に熱い気持ちを持っていると

知ることができ、愛媛出身のオリエンテーリング選手としては頼もしく、また今後もいろんな面で協力したいという気持ちが強まった。会場手配がうまく進まない面があったようで、野外での活動に制限があったが、そのような環境でも地図を使った遊びが十分楽しめる、ということを示せたのは却って良かった。

（小泉成行）

松澤俊行、愛知会場を語る

3月6日(日)(参加15名)

松澤俊行

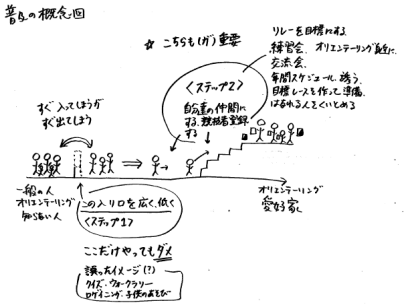
愛知会場の講習会は、メイン講師である新帯亮さん(愛知県協会)による講義から始まった。その後、松澤の講義を経て屋外へ移動。午後は、当地で継続的に行われている「フラワーウォーク」(ポイント0形式で行う公園テレインでのクイズ0)を活用した初心者説明実習と、クイック0リレーの体験を行なった。

屋外での実習終了後、参加者は屋内に戻り、オリエンテーリング等屋外でのナビゲーションプログラムを運営する際の留意事項の説明を、再び新帯さんから受けた。最後に、参加者一人ひとりから感想を話す時間が設けられた。

講義に聞き入る参加者たち
「買い物など、日常生活にもナビゲーション思考が必要」「オリエンテーリングの面白さは、問題解決の面白さ」など、示唆に富むコメントに満ちた講義に、一同しきりに頷く。

フラワーウォーク受付での初心者説明実習
公園では毎年恒例の「梅まつり」が行われており、フラワーウォークも大盛況。Oマップを手に園内を巡る家族連れの姿が溢れた。

感想では、「講義での説明を、今後参考にしたい」「クイック0を初心者の導入に役立てたい」との評価が聞かれる一方で、「未経験者にオリエンテーリングを楽しんでいただくことは、これまでも行われてきたが、継続的な愛好者は増えていない。その人口を増やす方法こそ、こういう場で検討されるべき」といった課題も提示された。



愛媛、愛知と、二週続けてアシスタント講師として講習会に関与させていただく上で、訴えたいことがいくつかあった。それは、初心者向けの導入プログラムも、オリエンテーリングの本質(「走りながらのナビゲーション」)を示すように提供するべきであること、オリエンテーリング関係者の高い運営能力を活かし、普及を成功させるには、今後、各行事の効果が積み重なるような仕組み作りや、その仕組みをうまく運用する組織整備が必要となること、などである。

昨年度の普及方法研修会で成果として挙がった「普及の概念図」(末尾に記載)を念頭に置いており、その図は今年度もご覧いただいた。

概念を具体化するヒントとして、クイック0を活かして定期的な集合練習を行うオリエンテーリング少年団創設や、小学生向けクイック0大会開催の、構想や実践を紹介した。(こうした活動については、新潟県の藤島由宇さんが特に尽力されている。)

また、自身がテクニカル・ディレクターとして関わる総合型地域スポーツクラブの定例プログラムにオリエンテーリングを取り入れ、定着させるためのプランについて軽く触れた。さらに、野外での体験実習の進行時には、「こうしたプログラムは初心者に面白く感じてもらえる他、経験者がやってみても楽しめるし、練習になる。オリエンテーリングクラブに所属している方は、練習に取り入れて、活動を盛んにして欲しい」といったコメントを添えた。

今回の参加者層は、競技に運営にと、オリエンテーリングと密接に結び付いている各県協会関係者の方々の他、オリエンテーリング以外のナビゲーションスポーツを専門とされる方々、ナビゲーションスポーツに特化せずに野外活動と関わっており、プログラム作りの参考にするために出席された方々など、様々であった。各地の事情に沿うよう、講義時の言い回しを変えたり、体験実習の内容をアレンジしたりして柔軟に対処した。

梅園の中でのクイックOリレー
Oマップを使わず、コントロール円とレッグ線のみの「図面」でのナビゲーションを体験。方向転換の難しさに戸惑いながらも、徐々にヒートアップ。

どの地域も一定水準以上の講習会が行われたのは確かだとしても、統一感に欠けたのでは、との懸念もある。講師陣を集め、事前研修を行い、講習会の内容をある程度固定し、組織として示すべき方針を明確にすれば、成果が一層挙がるかもしれない。

また、JOA主催行事としては難しいかもしれないが、オリエンテーリングクラブの活動計画作りや組織運営、オリエンテーリング界外との関係構築について深く考え、実際の活動の参考にできるような講習会・研修会もいずれ行われるべきであろう。実際に、参加者側からそうした要請もあった。他のスポーツ団体で普及を成功させた関係者のレクチャーや、オリエンテーリング以外のスポーツイベントの運営ボランティア体験といった、これまでになかったメニューが提供されると良いかもしれない。

以上、講習会の報告に加え、今後に向けての提言を少しばかり記させていただいた。かくいう自分自身、「オリエンテーリングという個人競技」のプレイヤーであると共に、「オリエンテーリングの普及活動という団体競技、組織戦」のプレイヤーであると自覚し、気を引き締め直している。ゴールに向かう途上では、個人技での突破だけにこだわらない、周囲との連携を図りながらのプレイを続けたい。

（松澤俊行）